

30年2月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成30年 2月1日～ 30年2月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
2月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

| 品目 | | 30/2月 | 3月 | 4月 |
|----------|--------|--------|--------|--------|
| 仕入 動向 | 国産材製材品 | △ 12.5 | △ 6.3 | 0.0 |
| | 外材製材品 | △ 31.3 | △ 18.8 | △ 12.5 |
| | 構造用集成材 | △ 42.9 | △ 21.4 | △ 14.3 |
| 消費 動向 | 国産材製材品 | △ 31.3 | △ 6.3 | 0.0 |
| | 外材製材品 | △ 93.8 | △ 18.8 | △ 14.3 |
| | 構造用集成材 | △ 35.7 | △ 28.6 | △ 14.3 |
| 在庫 動向 | 国産材製材品 | △ 25.0 | △ 6.3 | 0.0 |
| | 外材製材品 | △ 25.0 | △ 12.5 | △ 12.5 |
| | 構造用集成材 | △ 28.6 | △ 14.3 | △ 7.1 |

・国産材製材品の仕入、消費、在庫動向は2月、3月の減少から4月は横ばいに。

・外材、構造用集成材の仕入、消費、在庫動向は2が3カ月連続減少。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

| 品目 | 30/2月 | 3月 | 4月 |
|-----|--------|--------|-------|
| 受注 | △ 25.0 | △ 12.5 | △ 6.3 |
| 加工 | △ 31.3 | △ 12.5 | △ 6.3 |
| 受注残 | △ 31.3 | △ 25.0 | 0.0 |

・プレカット工場の受注、加工動向は3カ月連続減少。

・受注残は2月、3月の減少から4月は横ばいに。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

- ・仕入動向は、外材の急騰に先行き懸念。国産材も追随。消費動向は不需要期。先高を考えて在庫調整。構造用集成材は実績なし。
- ・不需要期のため、国産材以外は仕入を絞る。消費は外材製品から国産材へ樹種変更をかけていきたい。在庫は不需要期であるため外材製品の在庫をもう少し絞っていきたい。
- ・売価になかなか転嫁できず減収減益。

(受注動向)

- ・受注、加工、受注残とも大きな変化なし。
- ・受注残を減らしていくような生産体制をとっていく。
- ・4月から木材への補助金があるため、4月以降は受注が増える。
- ・受注、加工とも動きが悪い。

30年2月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成30年 2月1日～ 30年2月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
2月分の回答企業数は11社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

| 品目 | | 30/2月 | 3月 | 4月 |
|------|--------|--------|--------|--------|
| 入荷動向 | スギ・ヒノキ | △ 38.9 | △ 11.1 | △ 5.6 |
| | マツ | △ 45.0 | △ 35.0 | △ 25.0 |
| | 広葉樹 | △ 36.4 | △ 18.2 | △ 13.6 |
| 消費動向 | スギ・ヒノキ | 0.0 | 6.3 | 12.5 |
| | マツ | △ 11.1 | 0.0 | 0.0 |
| | 広葉樹 | △ 22.2 | △ 11.1 | △ 11.1 |
| 在庫動向 | スギ・ヒノキ | △ 43.8 | △ 25.0 | △ 25.0 |
| | マツ | △ 44.4 | △ 38.9 | △ 38.9 |
| | 広葉樹 | △ 30.0 | △ 20.0 | △ 20.0 |

・チップ用国産原木の入荷動向は、スギ・ヒノキ、マツ、広葉樹とも3カ月連続減少。
・スギ・ヒノキの消費動向は2月横ばいから3月、4月は増加に。マツは2月の減少から3月、4月は減少に。広葉樹は3カ月連続減少。
・スギ・ヒノキ、マツ、広葉樹の在庫動向は3カ月連続減少。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

| 品目 | 30/2月 | 3月 | 4月 |
|--------|-------|-----|-----|
| スギ・ヒノキ | 6.3 | 6.3 | 6.3 |
| マツ類 | 0.0 | 5.6 | 0.0 |
| 広葉樹 | 5.0 | 5.0 | 5.0 |

・チップ用国産原木の購入価格はスギ・ヒノキ、マツ、広葉樹とも横ばい推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・スギ・ヒノキ、マツはシステム材の入荷により来月まで入荷量は安定。在庫はスギ5.0→4.5カ月、マツ2.5→2.0カ月、広葉樹1.0→0.5カ月（東北）。
・バイオマス発電用に流れ、仕入材は減少している状況（関東）。
・仕入は1月、2月の北陸大雪のためトラックによる搬出が減少した。販売動向は、注文はあったがトラック輸送ができず減少した。在庫は昨年より20%程度減少した（中部）。
・冬場時期のため入荷は減少している。昨年より製紙会社の使用量が急激に上がり継続している（中部）。
・仕入、消費、在庫動向とも変動なし。1月の天候が悪く入荷がやや減少したが、2月は横ばいと見通す（中国）。
・当月積雪の影響にて仕入減少。翌月、翌々月回復の見込みでやや減少から横ばい見通し。消費も仕入動向と同じ。在庫は仕入れ減のため減少傾向（四国）。
・2月も取引素材業者からの広葉樹原木仕入が減少。宮崎市内近郊からの広葉樹確保は困難な状況。広葉樹原木確保が難しく消費、在庫とも減少。スギ・ヒノキ・マツの原木は基本購入しない（九州）。
・2月はまだ山での雪の影響や用材優先の搬出のため、特にスギ・ヒノキは1月同様に少なめの入荷を予想する。3月頃からはチップ用材の運搬が増えてくると思われる。全樹種ともできるだけ多くのチップの出荷要請があるが、スギ・ヒノキ原木の入手がしづらく、場合によっては注文に応えられない状況だ。スギ・ヒノキは3月頃には発電用の原木は在庫が増えるの見込まれる。製紙用はスギ、広葉樹も在庫は増える見込み。消費は横ばい見通し（佐賀）

(原木価格)

・チップ用国産材原木の購入価格は全樹種とも高値安定（東北）。
・原木の購入価格は変動なしで運営していきたい（中部）。
・入荷量も減少しており、価格は変わらない（中部）。
・2月より広葉樹のみ購入価格の見直しを検討（中国）。
・広葉樹は横ばいに推移。スギ・ヒノキ・マツの原木は基本購入しない（九州）。
・製紙用、木質バイオマス発電用とも、今以上の価格では買えない。価格変化はない（九州）

30年2月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

| 品目 | | 30/2月 | 3月 | 4月 |
|------|--------|--------|--------|--------|
| 生産動向 | スギ・ヒノキ | 0.0 | 7.1 | 14.3 |
| | マツ類 | △ 6.3 | 0.0 | 0.0 |
| | 広葉樹 | △ 27.8 | △ 16.7 | △ 16.7 |
| 出荷動向 | スギ・ヒノキ | 7.1 | 7.1 | 14.3 |
| | マツ類 | △ 6.3 | 0.0 | 0.0 |
| | 広葉樹 | △ 27.8 | △ 16.7 | △ 16.7 |
| 在庫動向 | スギ・ヒノキ | △ 50.0 | △ 28.6 | △ 21.4 |
| | マツ類 | △ 43.8 | △ 31.3 | △ 31.3 |
| | 広葉樹 | △ 22.2 | △ 22.2 | △ 22.2 |

・スギ・ヒノキの生産動向は2月の横ばいから3月、4月は増加に。マツ類は2月の減少から、3月、4月は横ばいに。広葉樹は3カ月連続減少。

・スギ・ヒノキの出荷動向は3カ月連続増加。マツ類は2月の減少から3月、4月は横ばいに。広葉樹は3カ月連続減少。

・在庫動向はスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも3カ月連続減少。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

| 品目 | 30/2月 | 3月 | 4月 |
|---------|-------|-----|-----|
| スギ・ヒノキ類 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| マツ類 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 広葉樹 | 5.6 | 0.0 | 0.0 |

・木材チップの出荷価格動向はスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも横ばい推移。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

- ・出荷動向は森林再生事業、システム材の入荷量増加に伴い微増。広葉樹は入荷量が少ないため出荷調整（東北）。
- ・各製紙会社より、製紙用として針葉樹チップを増やして欲しいとの要望あり。最近、特にバイオマス発電用のチップを供給して欲しいとの問い合わせが多い（関東）。
- ・生産、出荷、在庫動向とも変動なし（中国）。
- ・針葉樹チップについては製紙会社の受入れ制限がなく、最大の出荷を依頼されている。また、購入単価の見直しもありフル生産を行っている。広葉樹チップについては受入れが制限されている。スギ・ヒノキ、マツとも入荷減少。出荷好調のため在庫は急激に減少している（中部）。
- ・製紙、ボード、燃料受入れ制限はないが、仕入減にて生産に影響。生産減少にて生産動向と同じ。在庫は全樹種で減少（四国）。
- ・広葉樹原木の確保が難しく生産、消費とも減少。広葉樹チップの当月在庫はなし。基本、在庫は置かない。スギ・ヒノキ、マツのチップは生産、消費、在庫とも無し（九州）。
- ・全樹種とも計画通りフル生産、フル出荷の状態だが、原木不足になると減産せざるを得ない。弊社ではチップ在庫は持っていない（九州）。

(木材チップ価格)

- ・全樹種とも変動なし（中部）。
- ・針葉樹チップについては、一部製紙会社で12月より単価見直しがあった（中部）。
- ・1月より広葉樹のみ出荷価格がアップ（中国）。
- ・広葉樹チップ価格は横ばい推移（九州）。
- ・全樹種とも出荷価格の変更はない（九州）。